

『29+1』：多くの女性が恐れる重大な転機

結婚すべき時？

転職すべき時？

～すべき時？

“29+1”は秘密のコード。30歳に近づくにつれ揺れ動く気持ち。迫られる選択。29歳から30歳になることは、多くの女性が恐れる人生の岐路を意味します。

「劇の脚本を書いた時、私は30歳になるころでした。30歳を目前に控えたこの時期は人生の転換点であり、周りの友人たちはあれこれ思い悩み、私自身もいろいろな考えをめぐらしていました。半年をかけて書き上げ、2005年に初めての一人芝居を上演しました」と『29+1』の演出、脚本、主演（二役）を務めたキーレン・パン氏は述べています。

「収容人数わずか80人の小さな劇場から始まり、次第に規模を拡大して1,000人を超える観客に楽しんでいただける劇場で上演されるようになりました」

この一人芝居のストーリーは、もうすぐ30歳という2人の女性を中心に展開します。彼女たちのそれぞれ違った人生と世界観が思いがけず交差し、2人は人生の新たな方向性を見出していきます。

人生、期待、失望を描いた『29+1』は、多くの女性の共感を得て熱狂的な反響を呼んだ結果、2005年以降、9回にわたって公演が行われるとともに、北京、マカオへのツアーも開催されました。

「『29+1』は、香港の若い女性たちが直面する課題や困難についての典型的な物語です」とパン氏は述べています。

「ただ、香港の女性に限らず、きっと世界中の女性みんなが仕事や家庭環境、恋愛関係で同じような経験をしていると思うのです。この物語は、誰もが不安を抱くような人生における変化を取り上げており、人生の変化にどう向き合うべきかを考えることを目指したものです。」

現在までに『29+1』の累積上演数は100回以上に達し、延べ観客動員数は6万人を超えています。

2016年には、この舞台劇を原作に7人の俳優が出演する映画が制作されました。2017年に行われた第12回大阪アジア映画祭では、観客賞を獲得。以来、第37回香港電影金像獎の最優秀新人監督賞、香港電影評論学会による推薦映画8作品のうちの1本に選出、2017年青年映画ハンドブックの中国語映画トップ10入り、また香港映画監督組合の最優秀新人監督賞など、さまざまな栄誉に輝いています。2018年には日本でも、『29歳問題』のタイトルで劇場公開されました。

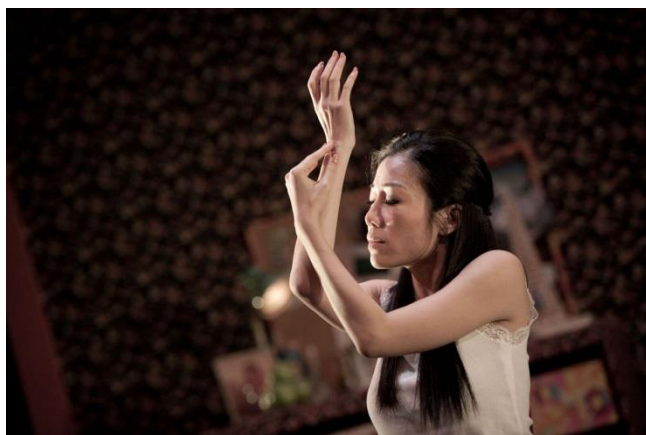
「この映画への反響により、30歳に近づくことについて世界中の人々が同じ心理的問題に直面していることが分かりました。ですが、自身が30かどうかにかかわらず、誰もがこの物語のどこかに琴線に触れるものを感じてもらえると思っています。」

今回、舞台劇『29+1』を収録した映画が、香港ウィークのハイライトとして東京で上映されます。

「映画『29歳問題』には、日本の観客の皆さんから良い評価をいただきました。今回の上映は、舞台版と映画版を比べるチャンスとなります」とパン氏は話しました。

「これは興味深い比較になるでしょう。舞台では、クリスティとティンロという2人の主人公を私が一人で演じたため、観る人は物語について、また違ったとらえ方をするかもしれません」と述べています。

この15年間で、パン氏は香港のアートシーン屈指のカリスマ的な人物となりました。作品には彼女の脚本家、監督、俳優としての才能が詰まっていて、ファンも批評家もそのウィットと感性に魅了されてきたのです。





舞台劇「29+1」で役を演じるキーレン・パン氏